

私の視点



国連事務総長

潘基文

戦争、人権侵害、開発の遅れ、気候変動、自然災害が、故郷を離れる人をおかたてないほど増やしている。6千万を超える人々（その半数は子どもだ）が、暴力や迫害から逃れ、難民や国内避難民となっている。加えて2億2500万の人々が、より良い機会を求めて、あるいは生き延びるため、移民になっている。

これは数の危機ではなく、世界の連帯の危機だ。難民の約9割は途上国が受け入れている。8カ国に世界の半数以上の難民が集中している。そして、たった10カ国が、こうした国々の窮状を緩和するための国連予算の75%を拠出しているのだ。

公平に責任分担すれば、受け入れ国で危機は起こらないはずだ。私たちには助ける必要がある。何をすべきかも分かっている。しかし恐怖と無知が邪魔し、理性よりも、外国人嫌いが声高に叫ばれている。

9月19日、国連総会は、この問題でハイレベル会議を開催する。国際社会がこの機会を生かせるよう、私は「安全と尊厳のために」という報告書を発表し、提案を行った。

提案の第一は、我々がみな同じ人類であると認識することだ。何千もの人が地中海やアンダマン海、アフリカなどで命を落としている。難民や移民は「他人」ではなく、人類の家族の一員だ。第二に、難民や移民は脅威ではなく、経済成長や発展に貢献してくれる人たちである。

難民と移民問題

世界連帯へ五つの提案

第三に、政治やコミュニティーの指導者は差別に反対する声を上げ、恐怖を煽って票を稼ごうとする者に抗する責任がある。第四に、避難の原因への対処に、もっと関心を払うべきだ。昨年国連で合意された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は強力な新ツールだ。第五に、人々の大規模な移動にうまく対応する国際システムを強化する必要がある。各国は1951年の難民条約を含め、国際的な法的義務を順守しなければならない。

密航業者や人身売買業者の取り締まり強化も急務だ。より秩序だった合法的ルートの確立が欠かせない。

私が5月23、24日にイスタンブールで開く「世界人道サミット」では、各国からの新たなコミットメントを追求する。国連総会での9月19日の会議では、最も切迫した難民や移民問題の解決に向けた方向性を示し、各国首脳が地球規模の協力を示せるものと期待している。

人類は数千年にわたり、移動を繰り返してきた。それは今後も続くだろう。迫害や暴力から逃れてくる者には保護を与え、難民や移民が新たな社会に貢献する機会を担保する。そうすることによってのみ、私たちはより繁栄し、より公平な未来を手に入れることができるのだ。

◆投稿用紙紙@siten@asahi.com
へ。電子メディアにも掲載します。